

三多摩青年合唱団 あめあがりコンサート 2022
被ばく・戦後75年委嘱作品

風の旅

Подорож вітру

(委嘱初演)

東日本大震災復興支援第12弾
ウクライナ人道支援第1弾



2022年

10月30日(日)

16時開演 15時15分開場

ルネこだいら
大ホール

プログラム

STAGE 1 指揮 赤坂有紀 ピアノ 寺嶋陸也

鈴木敏史の詩による6つの合唱曲

朝顔の苗より

詩：鈴木敏史 曲：寺嶋陸也

- これから100年(なわとびうた)
- 朝顔の苗
- カワセミ
- ふろしき

STAGE 2 客演指揮 寺嶋陸也 ピアノ 笹 有理子 独唱 赤坂有紀

混声合唱とピアノのためのカンタータ

風の旅 (委嘱初演)

詩：ドリアン助川 曲：寺嶋陸也

STAGE 3 指揮 赤坂有紀 ピアノ 峯崎道子 友情出演 オクサーナ・ステパニユック

ふるさと・大地を想う

- よみがえれ我が大地 アイルランド民謡

詩：横井久美子 編曲：青山義久

- メロディ

曲：ミロスラフ・スコリク 歌：オクサーナ・ステパニユック

- キーウ(キエフ)の鳥の歌

詩：Yevhen Hutsalo 曲：Oleksandr Bilash 編曲 鈴木豊乃

歌：オクサーナ・ステパニユック

- 希望の歌 シベリウス「フィンランディア」の旋律による

詩 編曲：林 光 独唱：オクサーナ・ステパニユック

- 故郷

詩：高野辰之 ナターシャ・グジー ウクライナ語訳詩 曲：岡野貞一 編曲：信長貴富

独唱：オクサーナ・ステパニユック

- 大地讃頌 混声合唱のためのカンタータ「土の歌」より第7章

詩：大木敦夫 曲：佐藤 眞

- 一本の木

詩：柴野京子 曲：寺嶋陸也

ごあいさつ

本日はお忙しい中、またコロナ禍でご心配な中、三多摩青年合唱団の演奏会においていただきまして誠にありがとうございます。

今私たちの住む地球は取り返しがつかないほど荒れ果て人間が起こした気候変動や戦争、原発による汚染や破壊は日本だけでなく世界中で悲鳴をあげています。このまま前に進んでいいのか・・・暮らしを根本から見直す必要があるのではないのか・・・

今回のテーマ『風の旅』は終戦・被爆75年のためにドリアン助川氏と寺嶋陸也氏に委嘱したもので、全7曲からなるカンタータ『風の旅』が生まれました。

2019年以来3年ぶりの演奏会となりますが、2年前に『風の旅』で伝えなかったメッセージは今も色褪せることなく益々浮き彫りになってきています。

コロナ禍で集まることも歌うこともままならない中、さまざまに工夫を凝らして大切に歌い続けてきましたが、ここでやっと皆さまにお聴きいただけることを大変嬉しく思います。

また「ふるさと・大地を想う」のステージは、ロシア

によるウクライナへの軍事侵攻に対する抗議とウクライナへの人道支援をいち早く訴える駅頭スタンディング行動の中でオペラ歌手のオクサーナ・ステパニユックさんと出会い実現しました。

この悲しく許し難い出来事に私たちは歌の力で何ができるのか?と今もスタンディングを続けながら問い続けています。

かねてより合唱団の指導に加わってくださっていた赤坂有紀さんをこの度、常任指揮者として迎えてはじめての演奏会です。

素晴らしい歌と人に恵まれ今日が迎えられたことを団員一同大変嬉しく思っています。と同時に支えてくださっている皆さまに心より感謝申し上げます。

どうぞ最後までごゆっくりお聴きください。

三多摩青年合唱団 団長
竹澤まみ

ご挨拶

指導スタッフとして数多くの大切な経験を積み重ねて頂いた三多摩青年合唱団、今年の春から常任指揮者を拝命いたしました。歌うことへ迷いも生じたかもしれないこの何年の間も、合唱団皆さんとの繋がりが力になっていたと感じています。

力の結集である「風の旅」は、ドリアン助川さん、寺嶋陸也さんお二人の生き姿そのものを観るような、祈りと愛に満ち溢れた作品です。言葉と音楽にどれだけの勇気を与えて頂いたことか、計り知れません。後世に残るべき楽曲の船出に立ち会えることはこの上ない喜びです。

世界でも未だに解決が見えない重い現実、これも合唱団皆さんの地道な積み重ねによって、ウクライナと直々に橋を架け、今回への繋がりを築かれたことはかけがえのないものです。

これからも共に耕し、実りある未来を目指し続けられる場に居られることを心より嬉しく思います。そしてまた、聴いてくださる皆様から共に歌い集うお仲間が増えることがありましたら、とても幸いです。

指揮 赤坂有紀

「歌声よ、風に届け」

ドリアン助川

風はいつ生まれたのだろうか。風はどこに去っていくのだろうか。少年の頃に抱いた問いかけは、その後の私に、いのちが継がれていく場を考えるきっかけを与えました。形ある生をやり遂げ、肉体を大地や空や海に戻すときがだれにでも来ます。魂のようなものが残るのかどうか私にはわかりませんが、仮にあったとしても、長い歳月のなかでそれは風と同化し、次によみがえるいのちのための透明なゆりかごへと転じていくのではないかと感じるのです。大地や海、そして風は、戻るところであり、再生の場でもあるという考えです。

戦後75年を思い、戦争と平和の視点、環境問題などを含めて合唱曲の詩を書いてもらえないか。三多摩青年合唱団からこうした依頼があったとき、私の脳裏に浮かんだのは、福島第一原発の事故による放射性物質を列島に撒き散らした風でした。

風に、そんなことをさせてはいけなと思いました。人類が誕生する以前から、ずっといのちを繋いできた風に、毒を運ばせるようなことをさせてはいけないのです。

パンデミックにより、合唱の機会を待ち続けたこの二年間。人類はまた状況を変えました。ユーラシアで戦争が始まったことから、日本も防衛費を倍加すべきだ、核武装すべきだなどという声が正面切って言われるようになりました。広島と長崎、南太平洋の核爆発で粉々に千切られ、燃やされたことがある風は、これからもいのちを継ぐ場であり続けてくれるでしょうか。

祈りそのものである寺嶋陸也さんの作曲、三多摩青年合唱団の渾身の歌唱による『風の旅』が、今この瞬間も地球を巡っている風に、私たちいのちの声として届きますように。

STAGE

1

鈴木敏史の詩による6つの合唱曲

朝顔の苗より

詩：鈴木敏史 曲：寺嶋陸也

- これから100年(なわとびうた)
- 朝顔の苗
- カワセミ
- ふろしき

『朝顔の苗』は、2005年にスタートした「栗山文昭のいわみ合唱塾」のために、毎年一曲ずつ作曲した曲集です。島根県益田市を中心とした地域で、まったく合唱の経験のない人も含むあらゆる年齢層の人を対象に、合唱の素晴らしさを分かち合おうと、益田市出身の合唱指揮者栗山文昭さんが始めたのがこの合唱塾で、栗山さんと合唱塾からの「何年も歌い継いでいける新しい曲を」との求めに応じて、全部で6つの曲ができました。

すべての曲が鈴木敏史(としちか)さんの詩に作曲したものです。鈴木さんは信州諏訪の詩人で、残念ながら2008年12月に故人となりましたが、最初に作った《星の美しい村》を、いわみの皆さんがまるで自分の村のこのように歌ったのを録音でお聴きになって以来、毎年合唱塾で新しい曲ができるのを楽しみにしていらっしやいました。《カワセミ》《これから100年》は、わざわざ原稿を送ってくださったもので、《ふろしき》の詩は、お見舞いに行った際(それがお会いする最後の機会になってしまいました)、病床で推敲を重ねた原稿を手渡してくださったものです。

日常生活や自然のちょっとしたところにこの上なく暖かいまなざしを投げかける鈴木さんの詩は、合唱塾の皆さんにいつも深く、また新鮮に共鳴していて、そのことがまた、私の作曲を後押ししてくれました。

寺嶋陸也

STAGE

2

混声合唱とピアノのためのカンタータ

風の旅 (委嘱初演)

詩：ドリアン助川 曲：寺嶋陸也

2001年のNHK学校音楽コンクールの課題曲《変》がドリアン助川さんの詩に作曲した最初の曲でしたが、その後、2018年～19年の合唱オペラ《星の王子さま》の台本にドリアンさんの訳を使わせていただき、さらには今年2月にオペラシアターこんにやく座によって初演されたオペラ《あん》の台本を書いていただくなど、このところドリアンさんには私にとって大きな曲の作曲にお力をいただいています。

混声合唱とピアノのためのカンタータ《風の旅》は、三多摩青年合唱団の皆さんが、ドリアンさんの詩で新しい合唱曲を歌いたい、と願ってくださったおかげでできた曲です。合唱団のみなさんの意見も聞き、話合いも持ったうえで書きおろされたドリアンさんの詩は、現代のさまざまな問題を含み、時間的にも空間的にも広さと深さを併せもつ壮大な詩ですが、大きな声で正義をふりかざしたり悪を告発したりというものではありません。些細な日常から宇宙の果てにまで向けられるその眼差しは、現状を見つめることに徹しているのですが、冷たいものではなく、なんと暖かい優しさに満ちていることでしょうか。

全部で7篇からなる連作詩をそのまま7つの楽章として作曲し、組曲よりもっと全体に強い繋がりのあるひとつの大きな合唱曲、という意味あいでも「カンタータ」と名付けました。オペラ《あん》よりも前の2020年の3月から4月初旬にかけて作曲しましたが、それはちょうど世界中で新型コロナが猛威をふるい始めた時期でした。

寺嶋陸也

STAGE 3 ふるさと・大地を想う

●よみがえれ我が大地 アイルランド民謡

詩：横井久美子 編曲：青山義久

16世紀から始まった英国の製鉄産業の急速な発展は、深刻な森林資源の略奪を招き、アイルランドもその影響を受けた。この詩はキルカッシュの森が売却され、城が荒廃した19世紀初頭に書かれたもの。この時代を偲ぶ民族的な歌とされる。シンガーソングライターの横井久美子によって1999年日本語に訳され、翌2000年11月三多摩青年合唱団により発表された(青山義久編曲)

木村 洋

●メロディー

曲：ミロスラフ・スコリク 歌：オクサーナ・ステパニユック

1938年にウクライナのリヴィウに生まれた作曲家スコリクが、映画「高き峠」のために作曲した、美しく感傷的なメロディ。

●キーウ(キエフ)の鳥の歌

曲詩：Yevhen Hutsalo 曲：Oleksandr Bilash 歌：オクサーナ・ステパニユック

この歌はウクライナの民謡とも、歌謡曲とも言われている。原曲は「また秋が来て 3 HOBY OCiHb」と言われており、別名「ナイチンゲール(小夜啼鳥(サヨナキドリ))」とも題される。1984年に北海道合唱団がウクライナの首都キーウを訪れたときに、歓迎会で演奏された曲を日本に持ち帰り、編曲し、歌詞をつけた。

●希望の歌 シベリウス「フィンランディア」の旋律による

詩 編曲：林 光

この歌は1990年に小学校の創立記念式典のために、林光がフィンランディア賛歌の旋律に合わせて歌詞とピアノ伴奏譜を書いたもの。今回は2001年に林光が伴奏を書き直したものを混声四部で演奏。フィンランディア賛歌は、ソ連の侵攻の結果国土の1割を割譲させられたフィンランドの作曲家シベリウスが、1941年に交響詩フィンランディアの一部のメロディを合唱用に編曲し愛国歌として完成させた。大国の専制に抗する民族の思いが背景にある。

小林信一

●故郷

詩：高野辰之 ナターシャ・グジー ウクライナ語訳詩 曲：岡野貞一 編曲：信長貴富

信長貴富編曲は、ウクライナ人歌手ナターシャ・グジーによる訳詞を編曲譜で使う許可を得て、2022年3月24日、長崎市の平和祈念像の前で、JCAユースクワイヤーによって初演された。全日本合唱連盟により譜面が公開された、そのホームページの信長氏のメッセージより「・・・略 私の個人的な思いですが、この曲があらゆる国の言葉で歌われたらと夢見ています。たとえ国と国とに争いが起こっても、音楽を愛する市民どうしは連帯すべきだと思うからです・・・略」

上村明子

●大地讃頌 混声合唱のためのカンタータ「土の歌」より第7章

詩：大木敦夫 曲：佐藤 眞

「混声合唱とオーケストラのためのカンタータ『土の歌』」は、1962年(昭和32年)東京混声合唱団、NHK交響楽団、岩城宏之にて初演された。ピアノ版混声四部は、1971年、杉並混声合唱団の第一回定期演奏会で全曲演奏され、その後、終曲の「大地讃頌」のみ中学高校などで盛んに歌われるようになる。2009年改訂版が最新。『土の歌』は、「農夫と土」「祖国の土」「死の灰」「もぐらもち」「大地の怒り」「地上の祈り」「大地讃頌」と7楽章で構成される。そして「大地讃頌」は、このコンサートにおいても新たな最終章としての命を得る。

上村明子

●一本の木

詩：柴野京子 曲：寺嶋陸也

来年のうたごえ運動75周年にむけて6人の作曲家の委嘱新作を集めた「スタートライン」が刊行されることになり、その1曲として作曲、2022年4月10日に三多摩青年合唱団と絹の道合唱団の皆さんの合唱(指揮は横山琢哉さん、ピアノは私)によって初演されました。

寺嶋陸也

風の旅

ドリアン助川

1.

一万年の眠りから覚めて
溶けだした氷河の滴(しずく)のなか
風は再び生まれ 手足を伸ばし
穴のあいた空を見つめる
うねり とまり めぐって 風は旅をはじめ

風は思い出の大地を探す
星々が暁に飲まれた頃
両手で揺らした一面のコスモス
風は花々に支えられ輝いた
とまり めぐり うねって 風はあの日を探す

懐かしさの果て 風は耳をすます
地響き立てて現れた野牛の群れ
ともに羽撃いた白鳥の翼
潮を噴き歌うクジラの親子
めぐり うねり とまって 風は記憶を辿る

でもいくら探しても野牛たちはいない
やせた鳥たちは塔のガラスにぶつかる
クジラの歌は遠く 珊瑚は白み
北極の氷さえも溶けて消えていく

梢を揺らせ遊んだ巨木はなくて
ただひたすら雨が降り続く熱い星
うねり とまり めぐって 風は渦を巻き
とまり めぐり うねって 風は話し相手を探す

2.

煙突が立ち並ぶ海辺の街を
少年と少女が手をつなぎ歩いている
少女の服の下にはむきだしの心が
それが痛むから 一筋の血を流すから
少年は彼女の手を握る
風はささやきかける
でも二人には聞こえない

鳥たちなら越えていける原野で
向かい合う男たちがいる
互いに武器を持って
どこにも引かれていない線のために
撃ち合い 血を流す男たちがいる
風は燃える梢の上で叫ぶ
でも誰にも聞こえない

砂の上に女の子が倒れている
女の子は水を汲みに行き
銃を持った少年に撃たれた
見えない線の向こうとこちら
女の子は指先で砂を握る
風はその横で泣き続ける
でも誰にも聞こえない

3.

風はセコイアの梢に腰かけ
顔を覆って泣いたよ
漏れ出る声は空に流れ
遠く 遠くまで 聞こえたよ
風はこの星に嘆いたよ

風は廃墟の砂をまきあげ
怒りのままに走ったよ
差し伸べる手が拳に変わるなら
人はなんのために生まれてきたの
風は苦しみのたうつよ

渦巻きながら海辺を漂い
風は見る 赤く濁った海を見る
風は力尽き倒れたよ

4.

空を仰ぐ風は知る
これまでこの星が繰り返して来た
大地が動き 大地が揺れ
大地がきしむそのときが来たことを

そして
爆発
いきなり
爆発
とうとう
爆発

この星が知らなかった
目には見えない毒が
噴き上がる 噴き上がる 噴き上がる

風は身をくねらせ 逃げる 逃げる 逃げる
風は駆けぬけ 逃げる 逃げる 逃げる

でも
風は逃げ切れず毒に染まり
雪のように降らす

風は人々の住む街に
風は小鳥の巣に 野うさぎの穴に
キャベツの芽に
風は森に川に山に海に
毒を降らす

風は手足を伸ばし
みずからをちぎりだす
ばらばらになるために
ちぎれて 消えるために
もう元には戻れない
この星を汚した自分

5.

風はちぎれ 地に落ちる
声を失い 記憶の底の光にすぎる

輝きと闇が出会ったとき
命の気配がしたことを
あれが始まりなら
再びこの世も生まれるだろうか

ちぎれた風はうずまり
始まりと終わりのない眠りのなか
言葉を越えた夢を見る
それは
あらたに生まれたあなたと
歩むこと

6.

あなたが生まれたとき
空も 雲も 森も生まれた

あなたが生まれたとき
あの人も 友も 父も母も生まれた

あなたが生まれたとき
喜びも哀しみもときめきも生まれた

でも あなたは知らない
風はあなたにささやきかけ
あなたと笑い あなたと泣き
あなたの旅に寄り添うことを

7.

ちぎれてしまったかなしみ抱え
風は再び立ち上がり
あなたを見つめる
風はあなたを見つめる

風はあなたの思い出を運ぶ
あなたがやっと歩きだしたとき
揺れていた一面のコスモス
あなたは花々のなかで輝いていた

あなたは生きていく
見えない線を挟み いがみ合うこの地にて
風の歌を知らず こぶしを突き上げる人々のなか
あなたの生を辿る風とともに

あなたは生きていく
あなたは風になり 風はあなたになり
うねり とまり めぐって 風はまた歩きだす
とまり めぐり うねって 風はまた歌いだす

あなたは生きていく
あなたは風となり 風はあなたとなり
うねり とまり めぐって 風はまた歩きだす
とまり めぐり うねって 風はまた歌いだす

出演者・スタッフ紹介



混声合唱とピアノのためのカンタータ 「風の旅」詩

ドリアン助川 (どりあんすけがわ)

1962年東京生まれ。

明治学院大学国際学部教授。作家・歌手。

早稲田大学第一文学部東洋哲学科卒。日本ペンクラブ常務理事。長野パラリンピック大会歌「旅立ちの時」作詞者。放送作家・海外取材記者を経て、1990年バンド「叫ぶ詩人の会」を結成。ラジオ深夜放送のパーソナリティとしても活躍。担当したニッポン放送系列「正義のラジオ・ジャンベルジャン」が放送文化基金賞を受賞。同バンド解散後、2000年からニューヨークに3年間滞在し、日米混成バンドでライブを繰り広げる。帰国後は明川哲也の第二筆名も交え、本格的に執筆を開始。著書多数。

小説「あん」は河瀬直美監督により映画化され、2015年カンヌ国際映画祭のオープニングフィルムとなる。

また小説そのものもフランス、イギリス、ドイツ、イタリアなど21言語に翻訳されている。2017年、小説「あん」がフランスの「DOMITYS文学賞」と「読者による文庫本大賞(Le Prix des Lecteurs du Livre du Poche)の二冠を得る。2019年、「線量計と奥の細道」が「日本エッセイスト・クラブ賞」を受賞。



客演指揮・ピアノ

寺嶋陸也 (てらしまりくや)

東京藝術大学音楽学部作曲科卒、同大学院修了。97年東京都現代美術館でのボンビドー・コレクション展開催記念サティ連続コンサート「伝統の変装」、03年パリ日本文化会館における作品個展「東洋・西洋の音楽の交流」などは高く評価され、06年にはタングルウッド音楽祭に招かれボストン交響楽団のメンバーと自作を含む室内楽を演奏した。作曲、ピアノ、指揮など活動は多方面にわたる。オペラ『あん』『グスコブドリの伝記』『ヒト・マル』『ガリレイの生涯』『末摘花』、ヴォードヴィル『タバコの害について』、『尺八・二十絃箏と管弦楽のための協奏曲』など作品多数。「大陸・半島・島/寺嶋陸也作品集」(ALCD9026)、「寺嶋陸也plays林光」(NARD5034)「寺嶋陸也ピアノリサイタル〜シューベルト3大ソナタを弾く〜」(NARC2129・30)など、多くのCDがある。

三多摩青年合唱団とは、『ふるさとの風に』や『さくらんぼの実る頃』(混声版)の委嘱作品があるほか、指揮者、ピアニストとして何度も共演を重ねている。

お茶の水女子大学文教育学部非常勤講師。



指揮

赤坂有紀 (あかさか ゆき)

宇都宮大学教育学部音楽科卒業、同大学院教育学研究科修了。声楽を石野健二氏、大島博氏に、指揮法を高階正光氏、今村能氏、森垣桂一氏に師事。1995年にはWorld Youth Choirメンバーに選出されカナダでのツアーに参加。現在は栗山文昭氏音楽監督・栗友会(りつゆうかい)に所属しながら、合唱指揮者、ソロ・合唱歌手、ヴォイス・アンサンブルトレーナーとして多岐にわたり活動している。2008年Tokyo Cantat第1回「若い指揮者のための合唱指揮コンクール」にて第1位、ならびにノルウェー大使館奨学金を受賞。JCDA日本合唱指揮者協会会員。21世紀の合唱を考える会 合唱人集団「音楽樹」会員。



友情出演

オクサーナ・ステパニユック (オペラ歌手)

藤原歌劇団正団員、日本オペラ協会。コンクールの審査員等もつとめる。ミロシニチェンコイエヴゲニア、マルゲリータ・グリエルミに師事。

主なレパートリー: ヴェルディ「椿姫」「リゴレット」「仮面舞踏会」、ハイドン「天地創造」ドニゼッティ「愛の妙薬」「ランメルモールのルチア」、モーツァルト「魔笛」「レクイエム」、フォーレ「レクイエム」、プッチーニ「ジャンニ・スキッキ」、J, シュトラウスIII「こもり」、ヘンデル オラトリオ「メサイア」、ベートーヴェン交響曲第9番ソリスト等。カール・オルフ「カルミナ・ブラーナ」、大ミサ曲 ハ短調 K.427 (K.417a) モーツァルトにてソリストとして出演。東日本大震災後、福島支援のコンサートや、スリランカ・カンボジア・フィリピン・ウクライナなどで多数のチャリティ・コンサートを開催している。



ピアノ

笹 有里子 (ささゆりこ)

東京芸術大学卒。同期フルートの鈴木千代氏とデュオ“アミューズ”を結成、11回に亘りリサイタルを開催。多摩六都フレッシュコンサート第4回、第6回オーディションに合格。同コンサート第十回記念特別演奏者に選ばれる。77年、カザフスタン共和国、'99年、ロシアで開催された「日本文化週間」にピアニストとして同行。府中の森芸術劇場にてベートーヴェンのピアノ協奏曲第3番を、紀尾井ホールにて J・S バッハの2台のピアノのための協奏曲ハ短調 BWV1062をオーケストラと共演。'09年NHK-FM 名曲リサイタルにトランペット、バストロンボーンとのトリオで出演。森静、和久菜々穂、須貝久子、故林美奈子、坪田昭三の各氏に師事。



ピアノ

峯崎道子 (みねざきみちこ)

国立音楽大学音楽学部器楽学科(ピアノ専攻)卒業。ピアノを有賀恵、助川陽子、伴奏法を金井信の各氏に師事。在学中、第11回ピアノ教育連盟オーディションにおいて奨励賞受賞。卒業後、大学院歌曲クラスや様々なコンクールにて伴奏ピアニストを務める。現在、声楽、合唱の伴奏やピアノ指導等幅広く活動している。



合唱指導

大塚雅仁 (おおつかまさと)

群馬県生まれ。千葉大学法経学部法学科、ならびに東京芸術大学声楽科を卒業。武蔵野音楽大学別科を修了。声楽を堀内康雄、多田羅迪夫、野本立人、大島博、指揮法を森垣桂一、今村能の各氏に師事。オペラでのバリトンの諸役に加え、フォーレ、池辺晋一郎、上田益『レクイエム』ベートーヴェン『第九』『合唱幻想曲』、ヘンデル『メサイア』などのバリトンソロを務める。また、合唱指揮者 栗山文昭氏の栗友会合唱団の一員として、様々な合唱の研鑽を積む。「第2回 若い指揮者のための合唱指揮コンクール」第3位。近年、青山学院大学の「オール青山メサイア」合唱指導を担当。現在、多くの合唱団に指揮者、ヴォイストレーナーとして関わっている。認定NPO法人「朴の会」理事。合唱人集団「音楽樹」会員。



合唱指導

佐藤伸行 (さとうのぶゆき)

岩手県出身。東北大学在学中より様々な合唱団・アンサンブルで演奏・コンクール出場を行う。また指揮法講習会に7度参加。就職とともに上京してからは、CANTUS ANIMAEに所属し、雨森文也氏の元で合唱音楽を学ぶ。声楽を羽山晃生氏に師事。2021年第1回国際声楽コンクール東京にて愛好者Y部門1位入賞。現在はCANTUS ANIMAE、vocalconsort initiumで歌っている。



教育者・ヴォイストレーナー

峯崎りみ (みねざきりみ)

声楽を故東敦子・故小野光子・保多由子氏に 指揮を高浪晋一氏に師事。1995年、故井上頼豊(チェリスト)・故小野光子(声楽家)・外山雄三(指揮者)・守屋博之(合唱指揮者)氏等のよびかけで“峯崎りみ後援会”が発足。この間、数回のリサイタルや“峯崎りみ歌の夕べ”シリーズの企画をはじめ、大小様々な演奏会に出演している他、カザフスタン共和国やノヴォシヴィルスクでの「日本文化週間」にも招かれて演奏している。現在6つの合唱団の指揮の他、声楽教室“COLORE”を主宰し、後進の育成に携わっている。現代声楽教育研究会・ロシア歌曲研究会・日口音楽家協会会員・三多摩青年合唱団教育者及びヴォイストレーナー

三多摩青年合唱団



1963年創立。多摩地域でうたごえ運動の一翼を担い様々な演奏活動を展開している。

1978年より音楽会の名称を「あめあがりコンサート」とし現在に至る。近年では新作委嘱に意欲的に取り組み、2005年に竹内浩三詩、寺嶋陸也曲の組曲「ふるさとの風に」（2010年の「骨の歌う」を加え完結）を、2006年には谷川俊太郎詩、松下耕曲の組曲「信じる」を、それぞれ作曲家を招いて委嘱初演する。2011年、栗山文昭氏と栗友会合唱団を招き開催したコンサート以来、東日本大震災復興支援コンサートとして取り組む一方、岩手県宮古市や福島県いわき市を訪問し、仮設住宅でのうたう会や平和のついででの演奏などを行っている。2014年、団創立50周年記念音楽会を震災復興支援コンサートとして開催し、谷川俊太郎詩、信長貴富曲の6つのソング「ワクワク」を客演指揮に赤坂有紀氏、演出にしままなぶ氏を招き委嘱初演し好評を博し、新たなスタートを切った。

【三多摩青年合唱団 団員】

ソプラノ

浅川 薫	石関 睦美	泉 和代子	今井 育子	上村 明子	草野 歩	近藤チエイ
高杉 敏江	竹澤 まみ	箱崎 陽子	比留間あゆみ	峯崎 りみ	結城 香澄	

アルト

北山 幸子	小菅 則子	小林 昭子	坂本 尚子	斎藤 康子	椎野 智子	高杉 敦子
塚野三津子	中村 緑	三浦 鈴子				

テナー

今井 和之	木村 洋	高杉 昌雄	三浦 明夫	結城 朝三
-------	------	-------	-------	-------

バス

小林 信一	島田 俊昭	須崎 英	津川 正洋	箱崎 作次	平野 治	深堀 慶一
-------	-------	------	-------	-------	------	-------

特別参加団員

ソプラノ	河村 光子	楠木 規子
アルト	宮崎 志保	
テナー	麻山 皓太	東深沢 茂
バス	小林 康弘	

スタッフ

- 舞台監督 ————— 塚野 尤次
- ビデオ撮影・配信 ————— 小田 克彦 神津 博行
- フライヤー・パンフレット
 - アートディレクション、デザイン — 小田 善久
 - イラスト ————— Anna Sarvira (PICTORIC)
 - special thanks ————— 波田 佳子